

木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会 第8回資料

(宇治川圏域の現状と課題および宇治川下流右岸の整備計画の目標)



古川の氾濫による
城陽市の浸水被害
(昭和61年7月)

平成23年10月31日
京都府

目次

1. 治水の現状と課題	
・ 河川整備状況	1
・ ブロック別の現状と課題	2
・ 河川改修以外のハード対策	7
・ ソフト対策	8
2. 利水の現状と課題	
・ 利水	9
3. 河川環境の現状と課題	
・ 水質	10
・ 生物環境	11
・ 水辺空間	12
・ 木幡池の水質・空間環境	13
4. 維持管理・その他の現状と課題	
・ 維持管理	14
・ 住民活動	14
5. 河川整備計画の目標	
・ 対象区間、対象期間、整備目標	15
・ 対象河川の抽出	16
・ 目標規模の設定	18
<参考> 治水の現状と課題	
・ 治水事業の経緯	19
・ 主な河川の改修状況	20

1.治水の現状と課題（河川整備状況）

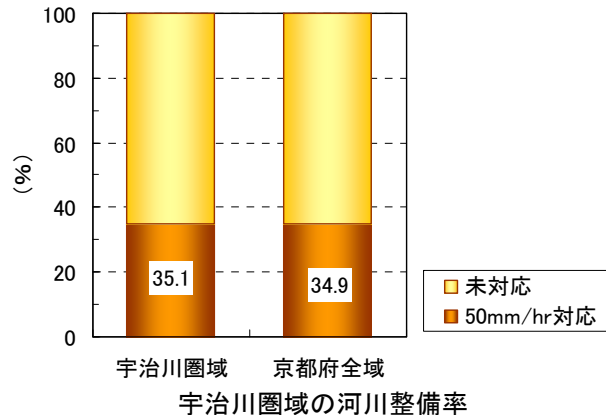
河川整備状況

現状

- 宇治川圏域の概ね1時間50mmの降雨水準に対する整備率は、平成21年度末で約35%であり、京都府全域の整備率と同程度である。
- 宇治川圏域では、下流右岸ブロックと下流左岸ブロックの河川流域に人口集中地区が集中している。一方、上流ブロックは大部分を山地が占める地域である。
- 圏域内の主要河川のうち、山科川、旧安祥寺川、田原川、犬打川などでは、上流部を除き概ね1時間50mmの降雨水準に達している。
- 古川、西野山川、弥陀次郎川、戦川などでは、継続して改修を実施中である。
- 旧安祥寺川では、局所的なネック対策（JR交差部）の工事を実施中である。

課題

- 人口集中地区を流下する河川において、概ね1時間50mm/hrの降雨水準に達していない区間があり、引き続き河川整備を進め、治水安全度の向上を図る必要がある。
- 既往洪水によって被害を受けた区間については、再度災害防止を図るため、河川整備を図る必要がある。
- 既存事業の実施中の区間については、優先度の高い事業の速やかな完成を目指す必要がある。
- その他、必要に応じて局部的な改良工事や、洪水等により被災した場合には直ちに復旧するなど、状況に即した適切な対応を図る必要がある。



宇治川圏域の河川整備状況

出典：京都府資料、国土数値情報ダウンロードサービス、淀川河川事務所HP

1.治水の現状と課題（ブロック別の現状と課題 1/3）

宇治川下流左岸ブロック

現状

- 宇治川下流左岸ブロックの北部は、かつて巨椋池があった地域であり、下図の中段地区は太閤堤を設置した時代に、下段地区は昭和初期の干拓事業で陸地化された。
- 古川は、木津川と宇治川の間に広がる低平地を流下し、河床勾配は1/1,000～1/3,000程度と緩く、流れは淀みがちである。
- 古川や農業用の排水幹線は低平地を流下するため、宇治川水位の上昇した場合には、久御山排水機場(国土省)、巨椋池排水機場(農水省)の2箇所の排水機場により排水され、古川の水位が上昇した場合には城陽排水機場(京都府)により木津川に排水されている。

- 古川や支川井川・名木川の流域では、上流部の丘陵地で高度成長期に宅地化が急速に進行し、本来、流域が持つべき保水能力が低下して、集中豪雨時の河川の溢水や内水氾濫による浸水被害の頻度が増した。
- 近年は、宇治市小倉町など低平な地域にも新興住宅が進出したため、出水時の浸水による家屋被害が増大する要因となっている。

排水機場の現状

名称	管理者	排水先	排水能力 (m ³ /s)	設置年度
久御山排水機場	国土交通省	宇治川	90(将来120)	S48年度～H4年度
城陽排水機場	京都府	木津川	15	H2年度、H8年度
巨椋池排水機場	農林水産省	宇治川	80	H17年度



古川(暫定改修)



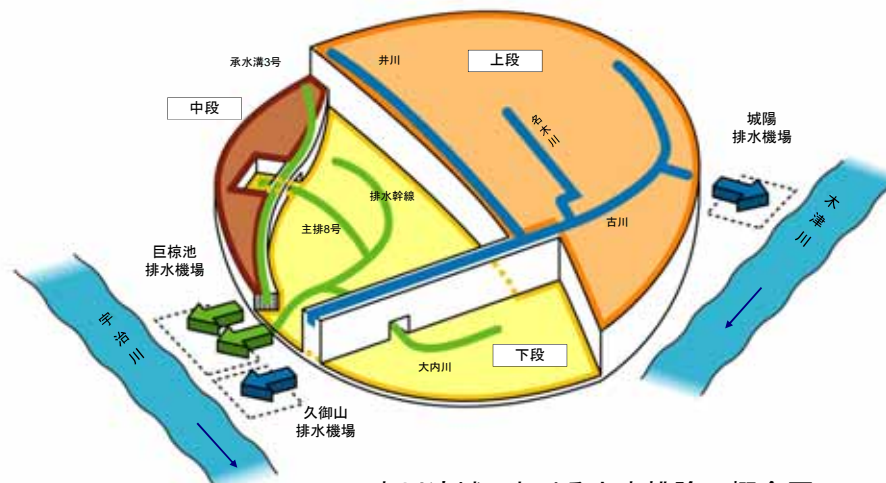
井川(暫定改修)



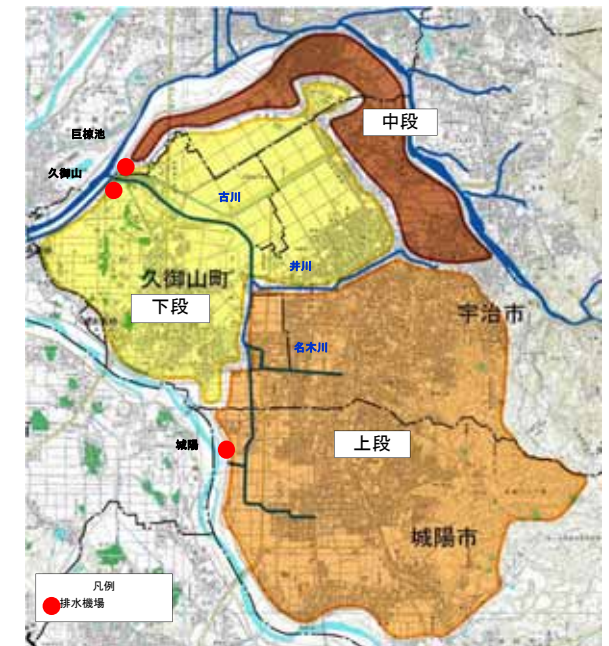
久御山排水機場(国土交通省管理)
出典:近畿地方整備局HP



城陽排水機場(京都府管理)



古川流域における内水排除の概念図



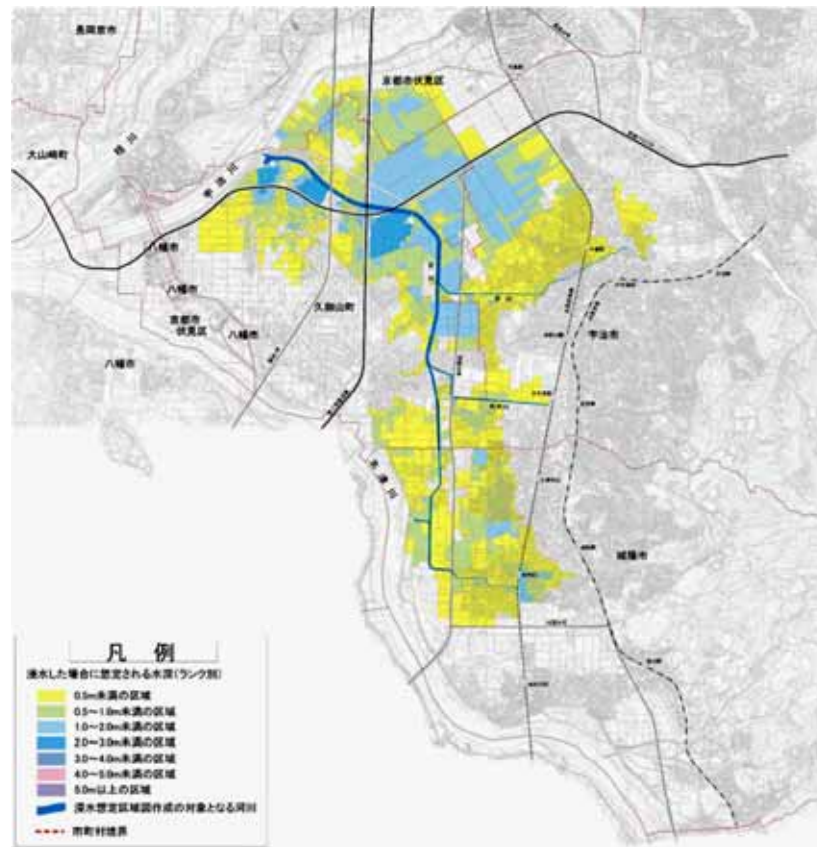
古川流域平面図

1.治水の現状と課題（ブロック別の現状と課題 1/3）

宇治川下流左岸ブロック

課題

- 古川や支川井川・名木川は、沿川に人口や資産が密集するとともに低平地を流下しているため、一旦、河川が氾濫すると浸水範囲、浸水時間は比較的大きなものとなり、社会的影響も増大することから、河道・河積の拡大や放水路による流量カットなど治水対策を図る必要がある。
- 近年の集中豪雨により河川未整備区間で浸水被害が頻発する状況にあるが、都市部では大規模な家屋移転などを伴うため、整備には長期間を要することが多い。このため河川整備や下水道の雨水対策に加え、雨水流出抑制対策など流域での取り組みや警戒避難に係るソフト対策などを組み合わせた、総合的な治水対策を図る必要がある。



浸水想定区域図(古川、名木川、井川)



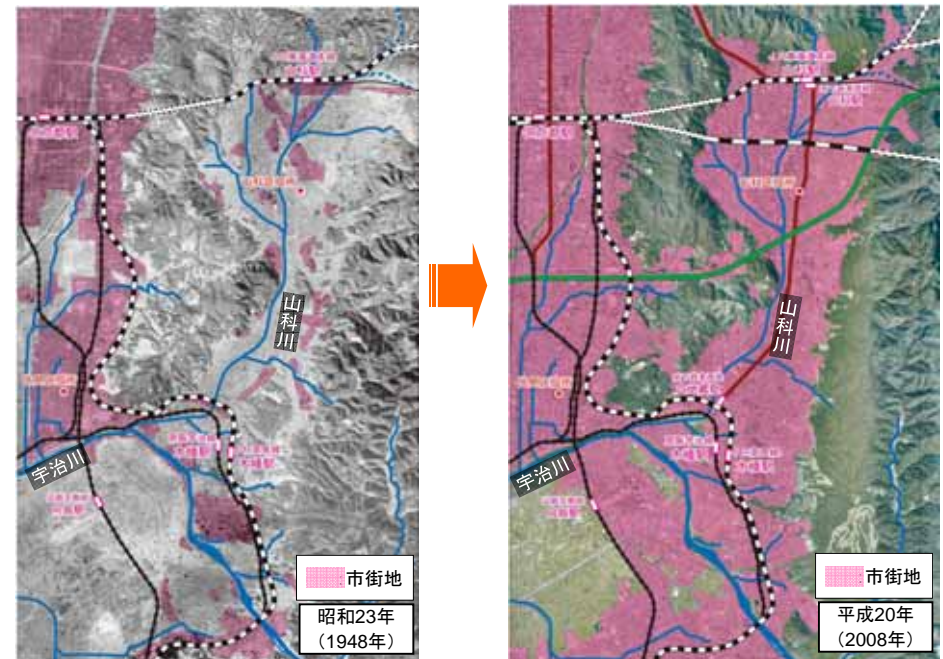
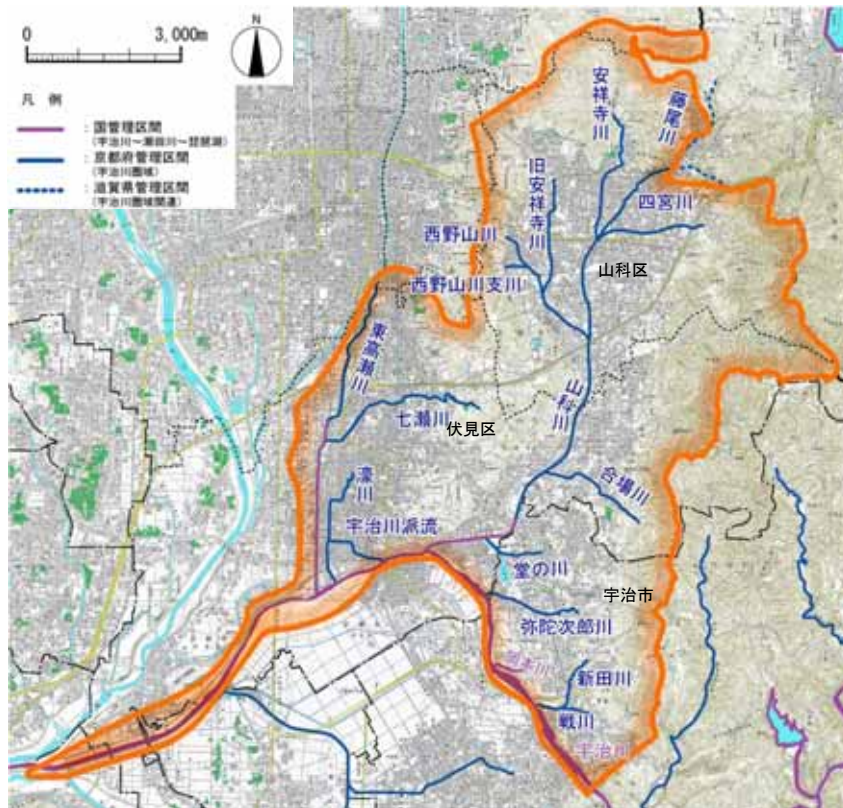
井川の溢水による道路冠水
(宇治市)

1.治水の現状と課題（ブロック別の現状と課題 2/3）

宇治川下流右岸ブロック(1/2)

現状

- 山科川とその支川の流域は、高度経済成長期の宅地開発により都市化が進展し、氾濫域への人口・資産の集積が進んでいる。都市化と並行して主要河川の整備が実施され、現在は各河川の上流部が未整備となっている。
- 伏見地区は、安土桃山時代に伏見城の城下町として発展し、河川沿いには昔ながらの密集市街地が広がる。東高瀬川とその支川七瀬川は、下流から順次暫定の河川整備が進められ、上流部が未整備となって残っており、豪川及び宇治川派流については、一定の治水安全度は保持している。
- 弥陀次郎川及び戦川は、旺盛な土砂生産により、下流部は天井川の形状をなし、過去には天井川に由来する災害が発生しており、現在天井川の切り下げを行う河川整備が下流から実施中又は実施済である。また、鉄道の交差点等が洪水を安全に流下させる上でのネック箇所となっている。



山科川流域および周辺部の土地利用の変化(空中写真の比較)



弥陀次郎川の天井川区間の災害(昭和42年7月洪水)
漏水により盛土が流出し、河床に穴が空いた(水路橋ではない)

1.治水の現状と課題（ブロック別の現状と課題 3/3）

宇治川下流右岸ブロック(2/2)

課題

- 東高瀬川、旧安祥寺川、西野山川・西野山川支川、戦川・新田川など、沿川や流域で密集した市街化がみられる河川では、未整備区間を対象に引き続き河道拡大や捷水路など河川整備を図る必要がある。
- 七瀬川、弥陀次郎川、戦川など、鉄道交差部等が洪水を安全に流下させる上で、局所的なネック箇所となっている河川では、ネック箇所前後の一連区間について重点的に河川整備を図る必要がある。なお、弥陀次郎川、戦川については、JR奈良線の複線化の検討状況を踏まえる必要がある。
- 弥陀次郎川の天井川区間は、堤防の決壊や溢水が発生した場合の被害は非常に大きなものとなることから、河床の切り下げや河川断面の拡大により被害の軽減を図る必要がある。



七瀬川の未改修区間(京阪線下流)



東高瀬川の未改修区間



旧安祥寺川の未改修区間
(JR東海道線交差部)



西野山川捷水路の予定地
(着手前の状況)

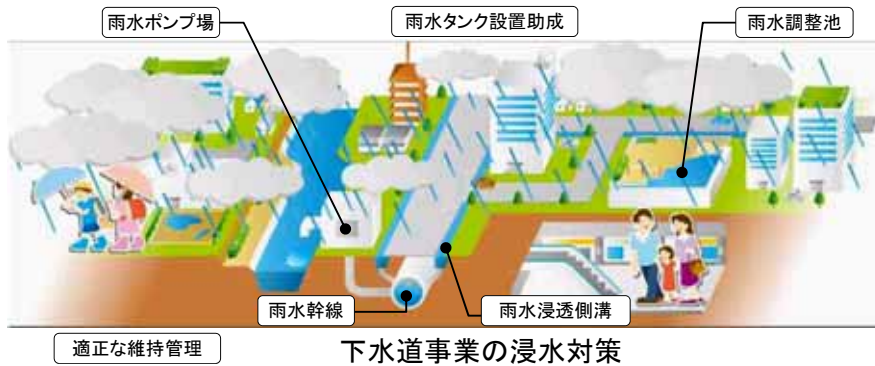
1.治水の現状と課題（河川改修以外のハード対策）

河川改修以外のハード対策

下水道事業（雨水幹線・雨水ポンプ場等）

現状

- 東高瀬川流域、山科川流域では、下水道事業によるハード対策（浸水対策のための雨水幹線や雨水ポンプ場等の整備）が進められている。



出典：京都市「雨に強いまちづくり推進計画」

雨水流出抑制施設（貯留・浸透）

現状

- 近年頻発する局地的な集中豪雨等により、未整備河川の溢水のほか、整備済み河川においても、流入する普通河川や道路側溝、下水道管など排水路の能力不足によって浸水が発生している。また、地下駐車場等の浸水など都市型水害の恐れも顕在化しており、降雨時の流出量を抑える必要性が増している。
- 京都府や流域の市町において、個々の家庭や校庭・公園での貯留施設等雨水浸透貯留施設の整備による対策を進めている。
- 京都府では、府管理施設での貯留施設整備に向けた検討を行っている。
- 京都市では、宅地等に雨水貯留施設、雨水浸透柵を設置した場合、補助金を交付する制度を設けている。
- 宇治市では、校庭貯留など流域貯留施設の整備を進めている他、城陽市は、総合排水計画で流出抑制対策を基本方針に位置付け、「浸透適地マップ」を作成するとともに、校庭等での貯留施設整備に向けた検討を行っている。

課題

- 近年頻発する局地的な集中豪雨等による浸水被害の軽減に向けて、流域において効果的な雨水の流出抑制対策をさらに進める必要がある。個々の家庭での雨水貯留浸透施設、校庭・公園での貯留施設による対策等を進め、降雨時の流出量を抑える必要がある。



グラウンドでの貯留状況
（宇治市立伊勢田小学校）

1.治水の現状と課題（ソフト対策）

ソフト対策

現状

- 京都府では、河川改修などのハード対策と併せて、防災情報の充実などソフト対策を推進している。
- 主要河川に河川防災カメラを設置するとともに、インターネット・携帯電話・地上デジタル放送のデータ放送など多用な媒体を通して、水防活動や避難の目安となるリアルタイムの雨量・水位情報や河川防災カメラ映像の提供を行っている。
- 水防警報河川・水防周知河川を指定するとともに、「万が一」の氾濫時を想定した浸水想定区域図をホームページ上で公表するなど、防災情報の共有化を進めている。

課題

- 地域住民や防災機関などが自助・共助・公助の活動を円滑に行うため、防災情報提供の充実・共有化を図り浸水被害の軽減に務めるとともに、地域や学校などと連携し、防災教育や防災訓練などの取り組みを通じて、地域防災力を高めていく必要がある。

防災マップ等を活用した水害に対する危機意識の啓発



京都市防災マップ水災害編(京都市伏見区)

防災訓練等の実施

防災情報提供



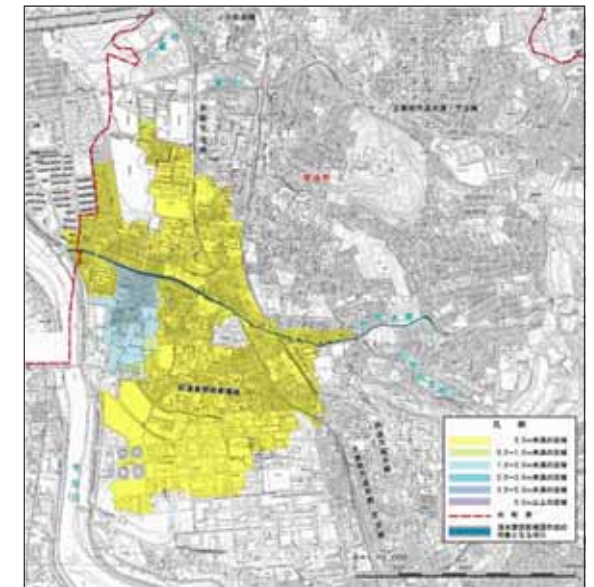
京都府総合防災訓練



防災カメラの画像
(京都府河川防災情報)

防災カメラの設置観測所

河川名	観測所名
古川	佐古
山科川	旧安祥寺川合流部
田原川	大導寺川合流部



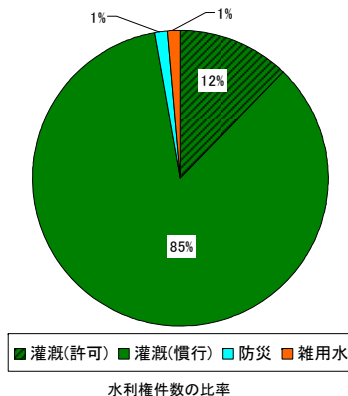
浸水想定区域図(弥陀次郎川)

2. 利水の現状と課題（利水）

利水

現状

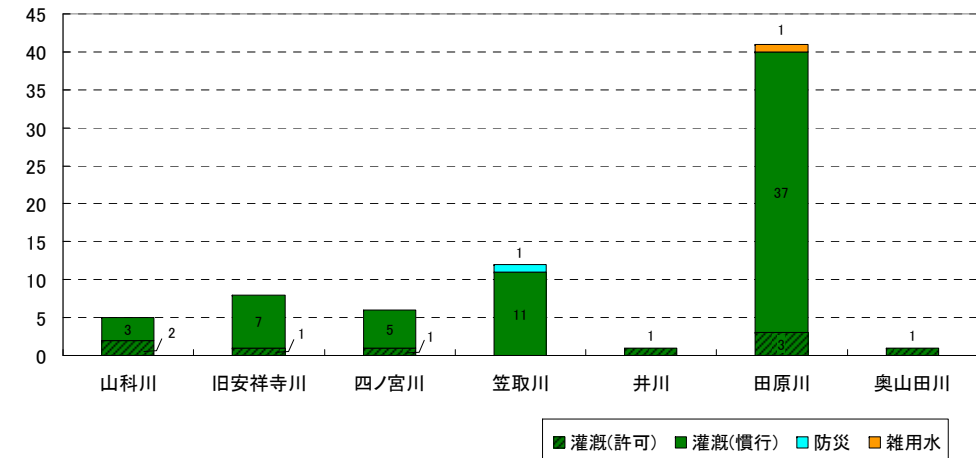
- 水利件数は、慣行水利権が63件、許可水利が11件の合計74件で、河川別では田原川が41件で最も多い。
- 水利権の97%が農業用水であり、農業用水以外では、笠取川で防火用水、田原川で雑用水として利用されている。



水利権の状況(圏域全体) 出典:京都府提供資料

課題

- 圏域の河川は、近年、渇水による瀬切れや農作物の被害の報告はなく適切な水利用がなされており、また、水需要に大きな変化がないことから現在の流況が保たれれば問題はない。



水利権の状況(河川別) 出典:京都府提供資料

<参考>

■ 上水道の水源について

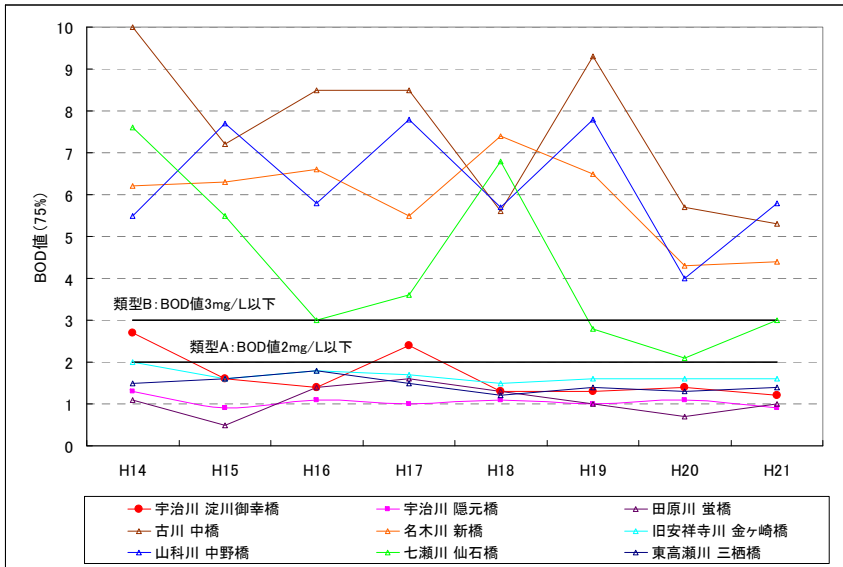
圏域内の京都府管理河川において上水の取水はなく、京都市は琵琶湖および宇治川から、宇治市、城陽市、久御山町は京都府営水道を通じて宇治川から、宇治田原町は町内の井戸から取水している。

3.河川環境の現状と課題（水質）

水質

現状

- 水質環境基準が設定されている宇治川本川は、類型Bに指定の宇治橋においてBOD75%値が環境基準3mg/Lを近年下回っている。類型Aに指定の隠元橋においてBOD75%値が環境基準2mg/Lを近年下回っている。
- 圏域内河川で水質環境基準が設定されている田原川は、類型Aに指定の蛸橋においてBOD75%値が環境基準2mg/Lを近年下回っている。
- 水質環境基準が設定されていない其他河川については、BOD75%値が2~3mg/Lを越える河川では経年的な変動傾向はなく、水質の改善は見られない。BOD75%値が2~3mg/Lを下回る河川では、経年的に大きな変化は無く概ね良好な水質を維持している。
- 下水道は京都市および城陽市ではほぼ普及しており、他の市町では近年、普及率の向上が目覚ましい。



※1 出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果（京都府HP）
 ※2 参考までに、類型BおよびAの基準値を示す。

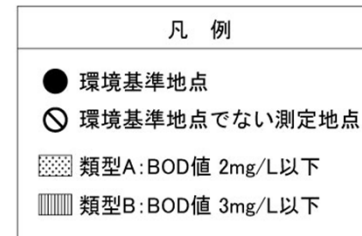
水質(BOD75%値)の経年変化

【BODとは】

水中の好気性微生物の増殖や呼吸によって消費される酸素量のことです。水の有機物汚染が大きければその有機物を栄養分とする微生物の活動も活発になり、微生物によって消費される酸素の量も増加します。BODが大きければ水中の有機物汚染が大きいことを示すため、水の有機物汚染の指標とされています。

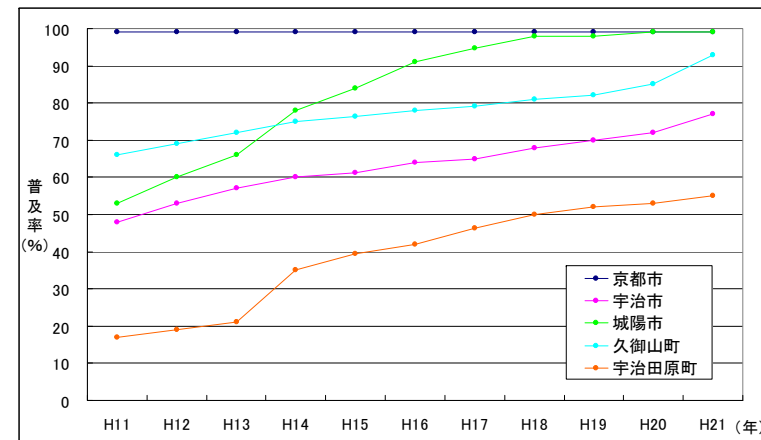
課題

- 今後とも、下水道の整備など、水質向上に向けた取り組みを進めるとともに、関係機関や住民と連携・協働し良好な水質環境の維持・改善に務める必要がある。



出典：公共用水域水質測定結果H21（京都府HP）、
 大気、水質等環境調査結果H21（京都市HP）

水質汚濁に係る環境基準の類型指定と水質測定地点の位置



下水道普及率(処理区内人口の比率)

3.河川環境の現状と課題 (生物環境)

生物環境

堂の川(木幡池)については、13頁に詳述

現状

- 下流左岸ブロックの古川下流部は、流れがよどみ水質も良好と言えないため、魚類は見られず、サカマキガイなど汚濁に強い貝が生息する。
- 下流右岸ブロックの山科川(旧安祥寺川合流点付近)では、オイカワ、カワムツ、カマツカ、カワヨシノボリ、フナ類、モツゴ、ムギツクが確認されるとともに、外来種のおオクチバスも確認された。
- 上流ブロックの宇治田原町の田原川他では、貴重種のスジシマドジョウ、ナゴヤダルマガエルが、志津川では、カワムツ、カワヨシノボリ、アユ、ドンコが確認された。また、いずれの河川でも外来種は確認されていない。

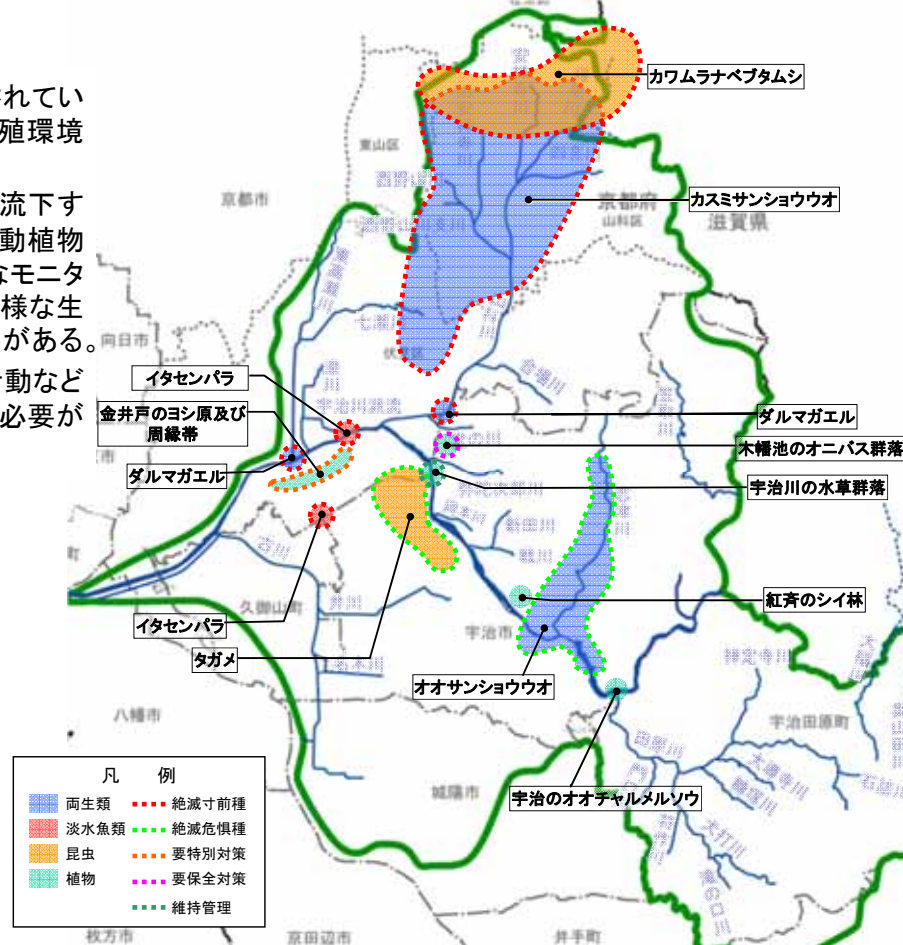
課題

- 下流右岸ブロックで外来種の生息が確認されているため、地域固有の生物の生息・生育・繁殖環境を保全する必要がある。
- 下流右岸ブロックや上流ブロックの山地を流下する河川では、良好な自然が残され、貴重な動植物も確認されていることから、今後も定期的なモニタリングにより生物環境の変化に注視し、多様な生物の生息・生育・繁殖環境を保全する必要がある。
- 地域や各種団体とも連携・協働した清掃活動などを通じ、良好な河川環境の保全に取り組む必要がある。

宇治川下流左岸ブロック(古川他)



<http://www.pref.kyoto.jp/select200/animal30.html>(京都府HP)



宇治川下流右岸ブロック(山科川他)

山科川 両岸ともコンクリート護岸で、落差工下流に中洲が形成され、水際の植生が発達している。



宇治川上流ブロック(田原川他)

京都の自然200選
ゲンジボタルの生息する
田原川(平成4年9月29日選定)
出典: 京都府HP



宇治田原町内の出典: 宇治田原町の野生生物 宇治田原町 H18.3発行

3.河川環境の現状と課題 (水辺空間)

水辺空間

現状

歴史・景観を重視した整備

- 伏見港は、かつて京都・大阪の交通の要衝として栄えた河川港であり、宇治川派流の全区間と宇治川本川の京都市区間が港湾区域に指定されている。現在は、「伏見みなと公園」として整備され、都市内の貴重な水辺空間となっている。
- 宇治川派流は、周辺に歴史的・景観的資源が数多く存在し、映像作品の撮影地としても活用される。春季～秋季には、観光船(十石船・三十石船)がNPOによって運航されている。



伏見みなと公園
(伏見の浜ゾーン)



伏見みなと公園(出合の水辺ゾーン)



十石船と酒蔵(宇治川派流)



宇治市総合野外活動センター「アクト
パル宇治」川の広場 (笠取川)
出典:宇治市HP



やすらぎの道桜並木 (田原川)
出典:宇治田原町HP

豊かな自然環境・環境学習の場

- 山地部の笠取川では市営研修施設と一体化した利用が行われ、上流農村部の田原川では桜並木など地元で親しまれている。



都市部の貴重なオープンスペースの提供

- 密集市街地を貫流する七瀬川では、2層式河川の上流がせせらぎ水路として整備されている。
- 山科川などでは、護岸等の環境整備、散策道の整備が行われている。



2層式河川上部のせせらぎ整備(七瀬川)
出典:京都市パンフレット「水鏡」



やすらぎの道桜並木 (田原川) 環境整備(山科川・旧安祥寺川合流点)

課題

- 引き続き、貴重な歴史的資源や優れた景観など、周辺環境との調和に配慮した河川整備を進めるとともに、地域住民のニーズを取り入れた親水性のある水辺空間の創出や豊かな自然環境を活かした水辺空間の利用促進に努める必要がある。
- 良好な水辺空間の維持に対する意識の啓発・高揚を図り、併せて、急な出水時の警戒・避難等、河川水難防止について地域と連携・協働を進めていく必要がある。

3.河川環境の現状と課題 (木幡池の水質・空間環境)

木幡池の水質・空間環境

現状

<水質・自然環境>

- 昭和30年代から市街化の進展により水質が悪化し、一時期は悪臭を伴っていたが、近年は下水道の普及により改善されつつある。依然としてアオコの発生などが問題になっており、富栄養化の抑制、悪臭の低減を図るため、平成12年度から中池、南池で底泥しゅんせつを実施した。
- 植物では、北池全域と南池東部を中心に重要種を確認した。一方、4種の特定外来種が確認され、過去にはボタンウキクサが異常繁茂し、生態系の攪乱が懸念された。
- 鳥類は特定種数が多く、北池と南池東部で重要種のオオヨシキリが繁殖している。

<空間環境>

- ヨシ群落や水面には水鳥などの生息種数が多く野鳥の観察スポットとして知られている。また、北池と南池では釣りや散策・犬の散歩などの利用も見られる。
- 周辺で公道に接する区間は限られ、湖面へアプローチできる部分は限定される一方、洪水時以外は水位は安定しており、周辺の道路との高低差も2~3mと小さいため、水辺の親水性は高い。

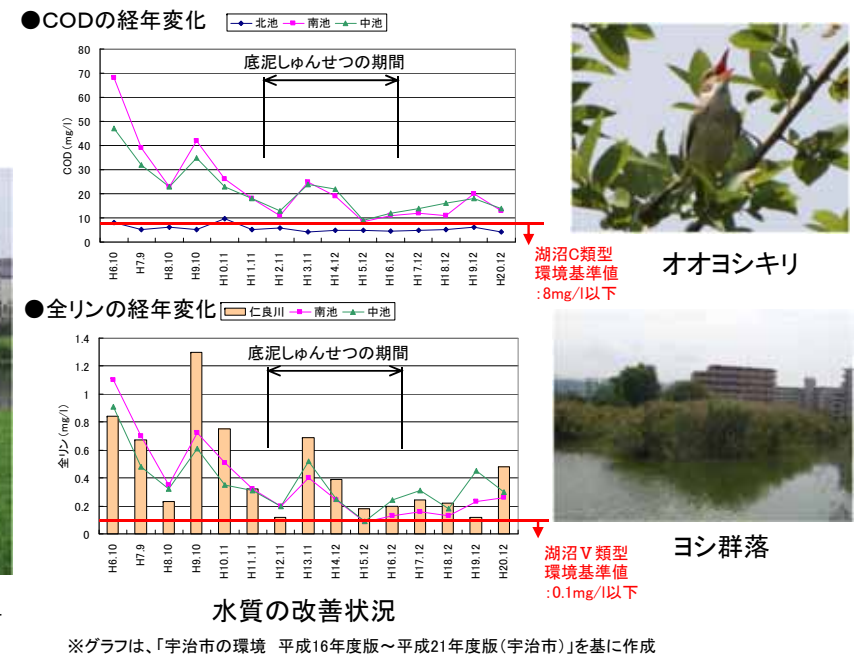
課題

<水質・自然環境>

- 水質では、栄養塩濃度が高く、湖沼の類型区分の最低の環境基準値(V類型)以上であることから、必要に応じて、底泥しゅんせつ等を実施する必要がある。
- 木幡池周辺地域固有の動植物の生息・生育・繁殖環境を保全に努める必要があるとともに、外来植物が繁殖した場合には、適切な維持管理を行う必要がある。

<空間環境>

- 平成21年8月に国土交通省から認可された宇治市の「かわまちづくり」計画に基づき、貴重な水辺の自然環境を保全しつつ、まちづくりと一体となった河川空間整備を関係市と連携・協働し進める必要がある。



4.維持管理・その他の現状と課題

維持管理

現状

- 洪水を安全に流下させるため、河川巡視や河川管理施設等の点検を行い、危険箇所や老朽箇所の早期発見とその補修を実施している。
- 河床の土砂堆積が著しく洪水の流下に障害となる場合は、魚類等の生息環境に配慮しつつ堆積土砂の撤去を行い、河積の確保により流下能力を維持している。
- ゴミ等の不法投棄、堤防上への駐車が見られ、これら不法行為は、洪水の安全な流下の阻害、水防活動への支障、河川環境悪化の恐れがあるため、警告看板の設置を行っている。
- 利用に際し危険と思われる箇所では、注意を促す立て看板の設置等を行い、河川の安全な利用について配慮している。



収集された不法投棄物(古川)



駐車禁止の注意看板(東高瀬川)



危険防止の注意看板(田原川)

課題

- 定期的な堤防の除草や洪水流下断面の確保・維持を目的に、自然環境に配慮しつつ堆積土砂の掘削や河道内樹木の伐開、その他適切な維持管理を継続的に実施する必要がある。

住民活動

現状

- 圏域内では、様々な住民団体・個人が、河川美化、環境保全、環境教育について活動している。
- 山城うるおい水辺パートナーシップ事業を展開し、地域の住民団体等が実施する定期的で継続的な美化清掃や環境保全、調査研究その他河川愛護ボランティア活動の支援を行っている。

《山城うるおい水辺パートナーシップ事業》

地域の住民団体等が、京都府府山城広域振興局が管理する河川の一定区間において実施する定期的で継続的な美化清掃や環境保全、調査研究その他河川愛護のボランティア活動に対し、府や地元市町村が支援する事業。

住民団体等には、「協働団体」になっていただき、河川管理者である京都府は、用具・研究資材の貸与・支給やボランティア保険加入及びサイン表示(看板設置)等の支援や広報などを行う。

市町村は、清掃回収された一般廃棄物の処分や広報その他の活動支援を行う。



古川周辺
出典: 城陽市HP



木幡池(堂の川)
出典: 山城広域振興局建設部HP



犬打川
出典: 山城広域振興局建設部HP

課題

- 今後もこれらの活動が継続・発展されるよう、必要に応じた支援を続けるとともに、関係機関との連携・協働を強化する必要がある。

5.河川整備計画の目標（対象区間、対象期間、整備目標）

河川整備計画の対象区間

本整備計画の対象区間は、**宇治川圏域にある府管理の一級河川の区間**とする。

河川整備計画の対象期間

本整備計画の対象期間は、**概ね30年間**とする。

洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標

圏域の整備計画の目標は、**概ね10年に1回程度**の降雨により予想される洪水を安全に流下させることを目指すこととするが、圏域の全ての河川について直ちに被害軽減を図ることは、予算的、時間的な制約があり困難である。このため、本整備計画では、想定氾濫区域内の人口と資産、河川の現況流下能力、近年の出水による被害の発生状況、既存事業の継続性などを総合的に勘案し重点的かつ優先的に整備を実施する河川を抽出する。また、これら河川の整備目標は、地位状況、河川特性、本支川バランスなどを考慮し河川ごとに目標規模を設定する。

また、古川流域については、近年頻発する局地的な集中豪雨等による浸水被害の軽減に向けて、流域において効果的な雨水の流出抑制対策をさらに進める。

その他の河川についても、局所的な改良、洪水等による被災箇所の復旧、治水上の支障となる堆積土砂の除去、堤防除草等により治水機能の適正な維持に努める。さらに、整備途上に起こる洪水や整備目標を上回る洪水による被害を最小限に抑えるため、ハード対策だけでなく、ソフト対策を組み合わせた効果的な治水対策に努める。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

宇治川圏域の市街地を貫流する地区において、貴重なオープンスペースやうらおい空間としての水辺利用や、豊かな自然環境を活かした水辺利用など、適正な水辺利用が図られるように努める。

特に、貴重な自然環境を有する**堂の川(木幡池)**においては、まちづくりと一体となった河川空間整備を関係市と連携・協働し進める。

さらに、良好な水質、水量、多様な生物の生息・生育環境の保全など流水の正常な機能が維持されるよう努める。

河川環境の整備と保全に関する目標

河川本来の変化に富んだ水辺の創出など、多様な生物が生息・生育する豊かな自然環境の保全・再生に配慮した河川整備に努める。河道内の堰や落差工により縦断方向の連続性が損なわれている箇所については、外来種の生息域の拡大を抑制しつつ、必要に応じ魚道整備等を検討する。また、河川工事の際には、河川に生息する生物など生態系への影響を最小限に抑えるため、濁水及び土砂の流下防止に努める。さらに、景観形成に係る指針に則り、貴重な文化財や優れた景観など歴史や周辺環境との調和に配慮した河川整備に努める。

5.河川整備計画の目標（対象河川の抽出1/2）

河川整備計画の整備対象河川の抽出

整備対象河川抽出の考え方

整備対象河川は、「想定氾濫区域内の人口と資産」、「河川の現況流下能力」、「近年の出水による被害の発生状況」、「既存事業の継続性」など、さまざまな観点から総合的に評価した上で選定する。

河川の整備状況、人口集中地区（DID）地区の分布状況、洪水発生状況、既存事業の状況をもとに、整備の優先度が高い河川を選定する。

概ね1時間に50mmの降雨水準に達していない区間を有し、かつ人口集中地区を含む河川
（宇治川下流右岸・左岸ブロック）

概ね1時間に50mmの降雨水準に達していない区間を有し、今後、地域状況の大きな変化が想定される河川
（宇治川上流ブロック）

近年の出水により外水氾濫の被害が発生している河川
（各ブロック共通）

既存計画の事業継続の必要性がある河川
（各ブロック共通）

今回は、**下流右岸ブロック**において整備対象河川を抽出

下流左岸ブロック・上流ブロックについては、関係機関と調整後、次回委員会で抽出結果及び整備目標を提示する



5.河川整備計画の目標（対象河川の抽出2/2）

河川整備計画の整備対象河川の抽出（宇治川下流右岸ブロック）

整備対象河川抽出の考え方

概ね1時間に50mmの降雨水準に達していない区間を有し、かつ人口集中地区を含む河川を抽出する。
 近年の出水により外水氾濫の被害が発生している河川を抽出する。
 既存事業継続の必要性がある河川を抽出する。

整備の優先度の高い河川の抽出結果

河川名	改修状況			整備率 A/(A+B) (%)	沿川状況 人口集中 地区(D1 D)の有無	洪水被害 近年洪水 による浸水 被害の有無	既定計画 の有無	河川整備計画の実施対象 選定理由	整備 対象
	概ね1時間50mmの降雨水準に対する整備		改修 不要 (km)						
	整備済 A (km)	未整備 B (km)							
東高瀬川		3.0		0.0	○	●	○	洪水被害があり、未整備区間で事業を計画中	◎
七瀬川	0.9	1.8		33.3	○	●	○	洪水被害があり、未整備区間で事業を実施中	◎
宇治川派流	4.0			100.0	○			整備が完了し、近年の洪水被害が無い	
濠川	1.5			100.0	○			整備が完了し、近年の洪水被害が無い	
山科川	5.9	2.2		72.8	○		○	近年の外水による洪水被害はない 災害関連河川改修事業で改修されている	○
堂ノ川	0.9		0.3	100.0	○		○	整備が完了し、近年の洪水被害が無い	
合場川	1.8			100.0	○		○	整備が完了し、近年の洪水被害が無い	
旧安祥寺川	3.4	1.0		77.3	○	●	○	洪水被害があり、未整備区間で事業を実施中	◎
西野山川、同支川	0.9	0.9		50.0	○	●	○	洪水被害があり、未整備区間で事業を実施中	◎
安祥寺川	0.9	2.0		31.0	○			近年の外水による洪水被害はない	○
四宮川		4.5		0.0	○		○	近年の外水による洪水被害はない 暫定計画で改修されている	○
藤尾川		1.8		0.0	○			近年の外水による洪水被害はない	○
弥陀次郎川	0.8	0.9	0.3	47.1	○	●	○	洪水被害があり、未整備区間で事業を実施中	◎
戦川、新田川	1.1	0.7	1.0	61.1	○	●	○	洪水被害があり、未整備区間で事業を実施中	◎

抽出河川

完成・目標水準を達成

➤ 圏域の整備目標は、概ね10年に1回程度の降雨により予想される洪水を安全に流下させることを目指し、**下流右岸ブロック**では、以下の12河川について重点的かつ優先的に整備を実施する。

東高瀬川 七瀬川 山科川 旧安祥寺川 野山川・西野山川支川
 安祥寺川 四ノ宮川・藤尾川 弥陀次郎川 戦川・新田川

➤ ただし、**山科川、安祥寺川、四ノ宮川・藤尾川**の上流未整備区間については、今後の浸水被害の発生や地域への影響などを踏まえ、河川改修の実施時期を検討することとする。

【凡例】

- 平成17年度人口集中地区
- 圏域
- 国管理区間
- (京都府管理区間)
- 概ね1時間50mmの降雨水準に達している区間
- 概ね1時間50mmの降雨水準に達していない区間
- 改修不要区間
- 府外(滋賀県)河川



宇治川下流右岸ブロックの河川整備状況

5.河川整備計画の目標（目標規模の設定）

抽出した河川の目標規模（宇治川下流右岸ブロック）

【目標規模の設定】

○整備の優先度が高い河川について、「社会状況」、「河川特性」、「上下流バランス」などを考慮して、河川整備計画の目標規模を設定する。

【整備の優先度が高い河川の目標規模およびその設定理由】

宇治川下流右岸ブロック

●東高瀬川・七瀬川：1/10(将来計画 東高瀬川1/100、七瀬川1/50)

掘削やネック部改修等により対応可能な規模で段階施工とする。(将来計画の実現に長時間を要する密集市街地。)

●旧安祥寺川・西野山川・西野山川支川：1/10(将来計画1/10)

都市河川ではあるが、一次支川山科川の流下能力見合いの整備目標規模とする。

●弥陀次郎川・戦川・新田川：1/50(将来計画1/50)

宇治川の背水の影響を受ける下流部が築堤区間となるため、氾濫時の被害が大きくなる。また、小規模断面区間であるため段階施工は行わず、将来計画規模で整備を行う。

府内河川の重要度分類表

河川砂防技術基準(案)			内河川の改修規模
河川区分	河川の重要度	計画の規模 (超過確率年)	
一級河川の主要区間	A級	200以上	直轄
	B級	100~200	
一級河川のその他区間 および二級河川	C級	50~100	淀川支川(都市)
	D級	10~50	淀川支川(一般)
			由良川支川(都・一)
	E級	10以下	二級水系(都・一)

※ 建設省河川砂防技術基準(案)計画編より

< 参考1 / 2 > 治水の現状と課題（治水事業の経緯）

治水事業の経緯

既往水害被害

- 昭和28年8月の南山城水害では、和束町湯船で約 7 時間に 400 mm という豪雨を記録し、宇治田原町などで氾濫や土石流の発生、堤防の決壊などによる甚大な被害が発生した。
- 昭和28年9月の台風13号では京都府域全体が大雨に見舞われ、宇治川の堤防が決壊するなど、圏域内の各地でも浸水、被害が発生した。
- 昭和42年7月の梅雨前線豪雨では、弥陀次郎川の水路の底が抜けた状態となり、天井川部の盛土が流失し、周辺の農地等が浸水した。
- 昭和61年7月の梅雨前線豪雨により、古川上流部と井川が氾濫した。これにより約3,300戸の家屋が浸水した。さらに、広範囲にわたって田畑が冠水するなど甚大な被害が生じた。
- 平成20年から23年にかけて、局地的豪雨等により古川や井川の流域で、溢水や内水氾濫による、床上・床下浸水被害が発生している。

治水対策

- 田原川では、昭和28年の浸水被害を契機に災害復旧事業が実施され、河道拡幅等の整備が行われた。
- 四宮川では、昭和31年度より河道整備が行われ、暫定断面でおおむね整備済みである。

【田原川】



【四宮川】



【山科川】



【東高瀬川】



【田原川(昭和28年災害)】



出典: 京都府の昭和28年災害

【城陽市の浸水被害(昭和61年7月)】



出典: 京都府城陽排水機場パンフレット

< 河川位置図 >



主に平成以前に実施された河川改修事業

- 山科川、旧安祥寺川、安祥寺川では、沿川の宅地化に伴い、それぞれ昭和37、45、45年度より、河道拡幅、掘削に着手し、上流部を除いて完成している。
- 東高瀬川では、昭和44年度より、下流から河道拡幅及び掘削を進めており、上流部を残して完成している。

< 参考2/2 > 治水の現状と課題（主な河川の改修状況）

主な河川の改修状況

近年の治水対策

- 古川は、昭和46年度に事業着手し、計画規模1/10(暫定1/3)の河川改修を進めている。また、昭和61年7月の浸水被害を契機に、「河川激甚災害対策特別緊急事業」により城陽排水機場を設置した。
- 古川支川の井川では、昭和60年度に事業着手し、河道掘削と護岸整備が進められている。

- 七瀬川では、平成4年度より事業着手し、下流区間の上下二層式河川が平成19年度に完成した。
- 弥陀次郎川では、平成2年度より事業着手し、1/50の計画規模で下流から堤防整備や河道掘削などを進めている。
- 戦川では、昭和54年度より事業着手し、1/50の計画規模で下流から堤防整備や河道掘削などを進めている。

古川

- 河川改修上のネック区間であった古川橋の架け替えが、平成19年度に完成した。
- 平成2年度に城陽排水機場を設置し、平成8年度にはポンプを増設して15m³/sの排水能力が完成した。



出典：京都府資料

【城陽排水機場】



出典：京都市城陽排水機場パンフレット

七瀬川

- 平成4年度より、下流区間の上下二層式での改修を進め、平成20年度に完成した。上部はせせらぎ河川となっている。

【二層式河川のイメージ】



【せせらぎ河川】



井川（古川支川）

- 古川合流点から遊田橋付近まで、計約1.3kmの区間の暫定改修が完成している。【砂田橋付近の暫定整備区間】



弥陀次郎川

- 全体計画延長760mのうち、雲雀橋を含めた約195mが改修済みである。

【改修前】



【改修後】



戦川

- 昭和54年度より、下流から河道拡幅や引堤を進めている。

【新田川合流後の改修済み区間】

